

釧路【釧路市】

あいざ さとみ
相座 聖美さん 株式会社うつくしろ 代表取締役

1978年生まれ、厚岸町出身。高卒後、JAしべちや（標茶町）に就職し結婚。約10年勤務後、離婚と同時に釧路町に移住しパート等で勤務していたが、ハローワークで森崎三記子さんと出会い「釧路モカプロジェクト」の設立メンバーとなる。現在3人の子どもと釧路町在住。



女性の活躍を支援し、自ら行動するまちづくりを

きっかけ

一人で子どもを抱えながら釧路町に移住し、仕事も思うようにならず苦しかったとき、ハローワークでキャリアカウンセラーの森崎三記子さんに出会いました。そこで、自分のことをたくさん話して、森崎さんが「それでいいんだよ」と言ってくださり、とても気持ちが楽になりました。私もこういう人になりたい！と思って2016年5月に「うつくしろ」を設立しました。「う(woman)つく(つくる)くしろ(釧路)」、「女性がつくる美しい釧路」という意味で、女性が活躍して自分たちでまちをつくっていくことを支援しています。

苦勞

「うつくしろ」とは別に、「釧路市生活相談支援センターくらしごと」と「くしろ若者サポートステーション」でも働いています。「くしろ若者サポートステーション」では、以前は責任者という立場で、職員のスケジュール管理や統括の仕事をしていました。でも、私がやりたいのは相談者のサポートなので、「内部管理の仕事は私でなくてもできる」と考え、今はキャリアカウンセラーとして非常勤で勤務しています。「うつくしろ」「くらしごと」「若者サポート」「モカプロジェクト」のそれぞれの活動をつなげてあげることができないかと、構想を練っています。

満足度

2016年8月に、コワーキングスペースと女性のためのシェアオフィスを備えた「くしろフィス」を開設しました。託児施設はないのですが子どもを連れて働けて、利用料は低価格にしています。「子どもがいるから働けない」「起業はお金がかかる」という言い訳ができない環境を作っているの、決して優しい場所ではありません(笑)。私はいつも夕方「くしろフィス」に行くのですが、ここでは毎日感動が生まれています！みんなパワーがあってキラキラ輝いてカッコイイ！女性が自らの力でつながり、私がいなくてもどんどん活動が広がっています。

これから

くしろフィスに子どもがもっと増えて、大人と子どもの関わりを作れたらいいなと思っています。小さい頃に親以外の大人にすぐ褒められた経験を持っていると、子どもにとって大きな自信になると思うんです。そして、子どもはくしろフィスで母が仕事をする姿を見て「家とは違う母」を感じ、色々な働き方をする大人を見ることは、キャリア教育になると考えています。現在、2階は交流やチャレンジの場ですが、3階にクラウドワークスペースを新たに設置して、託児施設も作って、がっちりデスクワークできる環境を作りたいです。

北の★女性たちへの メッセージ

あなたが感じているモヤモヤした気持ち、ドロドロした感情はおかしいことではないよ。でも、そんな思いは吐き出さないと何も見えてこない。本音を吐き出す場所が必要だと思って「くしろフィス」を作ったので、この場所を使っていよいよ！大丈夫だからおいでよ！

釧路【釧路町】

かとう まお
加藤 眞緒さん きずなネットワーク 代表

1965年生まれ、釧路市出身。同市内の高校を卒業後、東京都内で就職。釧路市に戻り結婚後、釧路町に移住。2015年7月に「きずなネットワーク」を設立。2016年3月に町の「協働のまちづくり活動団体」の認証を受け、同年4月から「子ども食堂」と「大人食堂」を開始。



「きずなネットワーク」メンバーの皆さん
(左から)吉村真由美さん、長畑由香利さん、加藤眞緒さん、内山麻美さん



仲間と一緒に、親子でおいしく楽しい「子ども食堂」

きっかけ

私は主婦で、子育てをしながら地域のボランティア活動に参加していました。料理が好きだったので、大人のための地域食堂のお手伝いをしていたのですが、高齢者は集まれるサロン等があるのに子どもたちは集まれる場所が少なかったと感じました。ちょうどその頃、世間では「子どもの貧困」がニュースになっていたこともあり、「子ども食堂をやりたい!」と思い、賛同してくれる仲間を集めて「きずなネットワーク」を立ち上げました。私の子どもたちも地域で育てていただいたので、地域に恩返しができる、という思いで活動しています。

苦勞

子ども食堂は、地域の子どもたちに来てもらいたかったので地区会館でやろうと考え、使用料を減免してもらおうと思っていたのですが、釧路町では初めての活動だったので「実績がないので減免できない」と言われてしまいました…。そこで、「協働のまちづくり活動団体」の認証を受けて、なんとか使用料を半額にしてもらいました!これから実績を積んで、使用料が免除になるようがんばります(笑)。あと、食事の価格設定にも悩みましたね。無料では継続できないので、大人食堂と併せて材料費をまかなえるギリギリの価格にしました。

満足度

子ども食堂は野菜を中心にしたメニューにしているのですが、家ではあまり野菜を食べないという子どもたちが好き嫌いせずたくさん食べてくれることが本当に嬉しいです。いつも競うようにモリモリ食べてくれます(笑)。現在、3か月の乳児から中学生まで15人くらいの子どもたちが来てくれていて、幅広い年代の子どもたちが子ども同士で楽しんでいるし、親たちも交流の場になっていて親子で喜んでくれています。あと、農家さんや漁師さんが「子どもたちに食べさせてやって!」と食材を提供してくれることも多く、子どもの力が地域を動かしていることに感動しています!

これから

釧路町は別保、雪裡、遠矢、昆布森の4つの地区に本庁舎や支所があり、子ども食堂はまだ遠矢地区でしか実施していませんが、町内全地区で子ども食堂をやりたいです。また、農家さんや漁師さんと連携して、規格外品等をご提供いただいで食品ロスの軽減もしていきたいです。あと、子どもたちに料理を手伝ってもらう機会も作りたいですね。「きずなネットワーク」という名前は、色々な方とのつながりを大切にしたいという思いから決めたので、色々な分野の方とつながって活動を広げていきたいです。

北の★女性たちへの
メッセージ

私が活動を始める時、一人では絶対に無理で、仲間がいたからできました。一人で悩むと視野が狭くなるので、ぜひ仲間を見つけてください。女性が元気だと、周囲も元気になります。一番は笑顔!笑顔で誠心誠意取り組めば、相手には必ず伝わります。

釧路【厚岸町】

もりたか ゆうこ
森高 裕子さん 森高牧場

厚岸町出身。札幌市内の短大卒業後、実家の商店を手伝っていた。20歳の時、幼なじみの夫と再会。東京都内で働いていた夫が厚岸町に戻り、実家の牧場を継いで結婚、専業主婦に。難病だった長女の介護に専念していたが、長女が亡くなった後にチーズづくりを始めた。



おいしい牛乳の味が感じられるチーズを届けたい

きっかけ

長女が、出生の時に脳性麻痺となり、常時介護が必要な状態でした。24歳で他界するまで、私がずっと付き添って介護していました。長女が亡くなった後、発作のように突然激しい嘔吐に襲われるようになり、色々な病院に行きましたが原因は不明で、外に出られずにいました。そんな時、夫に「チーズづくりをやってみないか」と勧められました。長男が牧場を継いでソフトクリームを販売していたので、ソフトクリーム小屋の後ろにチーズ工房を作りました。1年間の研修を経て、2005年からチーズの製造、販売を始めました。チーズづくりを始めてから、体調はすっかり良くなりました！

苦勞

うちは、戦後の栄養不足の時代に、夫の祖父が「おいしい牛乳を届けたい」という思いで始めた牧場です。この自慢の牛乳の味と香りが感じられるチーズを作りたいと思って、ゴーダチーズ1種類だけをつくっています。余計なものをなるべく排除して、牛乳の風味がする納得のいくチーズをつくるために日々奮闘しています。チーズは、つくってから3か月から4か月熟成してやっと味が決まります。すぐに結果が出ないので、つくるのは本当に難しい。チーズは生き物ですから、つくっている時は毎日神経を使っていますね。

満足度

心を込めてつくったチーズを、このように販売できることに感謝しています。色々な方からアドバイスをいただき、たくさんのお客様に買っていただいて、チーズを味わっていただけることが、幸せだなあと感じますね。うちのチーズは、子どもからお年寄りまで誰にでもおいしいと感じてもらえるように、塩分は控えめにして、チーズ独特の香りもなるべく出さないようにつくっています。牛乳の風味を生かしているのので、お客様からは「ミルクの味が濃い」と言っていただくこともあります。特に子どもたち、ミルクで育ったお乳のプロに「おいしい」と言ってもらえると本当に嬉しいですね。

これから

2016年の連続台風の時、長雨のせいで牛を牛舎から牧草地に出すことができず、牛乳の出来があまり良くありませんでした。牛乳が良くないと、チーズの出来も良くなかったんです。牛乳もチーズも、自然に密着して、風に当たり、日に当たりながらつくるものです。今後は、天候不良でも対応できるチーズのつくり方を考えていきたいですね。チーズづくりは、長女が導いてくれた道なのではないかと感じています。これからも、うちの牛乳とチーズを「おいしい」と喜んでいただける方々へお届けできるよう、がんばってまいります。

北の★女性たちへの
メッセージ

小さなまちで昔から大切に利用されてきたものが、今の時代は「赤字だから」「合理的でないから」と切り捨てられてしまうことがあります。こういう時、男性の考えだけでなく、女性の柔軟で新しい発想も取り入れて、ピンチを乗り切ることができるのではないのでしょうか。

根室【標津町】

和田 ^{わだ} 徳子 ^{のりこ}さん 子育てママサークル くらし・たのしく・まなぶ 標津女子塾 代表

千葉県出身。2000年、北海道東海大学大学院修士課程修了。上川管内の福祉施設等で陶芸・デザインを指導、アトリエ・ユニ主宰。標津町移転後、「くらし・たのしく・まなぶ 標津女子塾」代表、絵本読み聞かせボランティア等に従事。



お母さん&子どもの元気、出動！みんなで楽しみ暮らしたい

きっかけ

千葉県で生まれましたが、小学校からずっと旭川市在住、その後各地を巡り2011年に標津町へ引っ越ししてまいりました。標津女子塾を始めるきっかけは、娘が通う幼稚園がご縁で知り合った女性の「陶芸をやってみよう」という言葉。大学院修了後、上川管内の短大・福祉施設で陶芸を教えるほかアート制作のアトリエを主宰、陶芸の機材諸々を所持し物質面で可能であったこと、更に、私を含めお母さん同士の交流が、「スポーツ少年団」や「子どもが同学年」等が主で、卒業等を契機に解消されてしまうものであったことから、それとは異なるコミュニケーションの場・繋がる場をつくりたいとの情動的な思いが重なり、実現に至りました。

苦勞

苦勞…ということではありませんが、様々な活動で、みんなのベクトルを一致させる、きちんとコミュニケーションを取ることが大切と考え行動しています。実は先日、コミュニケーション形成セミナーを受講し修了いたしました。代表、と名乗っていますが、私自身、日々勉強、学びの姿勢であります。みんなのニーズを掴むと申しても根本にある思いは共通、お母さんが活き活きと過ごせること、そんなお母さんの姿が、「子ども達の将来」へ良い影響となるように、との願い。お母さんの元気！子どもの元気！を目指し頑張っています。

満足度

お母さん達はみな、子どもや家庭のために一生懸命、ややもすると人生の中心が「子どもや家庭」になりがちです。そうした「頑張り屋のお母さん達」と共に標津町文化祭へ出店することとなり、それをきっかけに「食品衛生」を学ぶための講習会を開催しました。文化祭は無事終了、出産後退職し育児に専念している女性等から「久しぶりに社会に触れることができました。働くってこういうことでしたよね。」「(出店の) 仕事に没頭した時間が嬉しかった。」等、感謝の言葉をいただきました。標津女子塾のモットーは「ゆる〜く」〇〇だけ参加、でOK。大きな「くくり」の中で繋がることを楽しんでいきます。

これから

仕事や様々な活動をしつつ子育てをなさっている女性も多くなりますが、そうした方ばかりではありません。育児等に専念する一方で、「何かやりたい」「何かに関わりたい」と思う女性は今、多いと感じます。フルでは難しいけれど自分のできる範囲で、社会と関わり活動する機会・場面をみんなで一緒に考えていきたい。「お母さん、すごい！」と子どもが思い、さらに、大人達が街のために行動する様子を子ども達が見て、人が集い、話し、行動する、ということは、「楽しいものなのだ」と感じて欲しい。個人的なことを言えば、息切れしないよう、モチベーションを保つこと！ですね！

北の★女性たちへの
メッセージ

大好きな北海道で大好きな仲間や家族と暮らせることに喜びを感じています。夢の実現は、そのイメージを口に出し人に伝えることが近道だと思っています。かつて先人たちが協力し暮らしてきた北海道魂を引き継ぎ、皆さんで楽しく学びあっていけたら最高です。